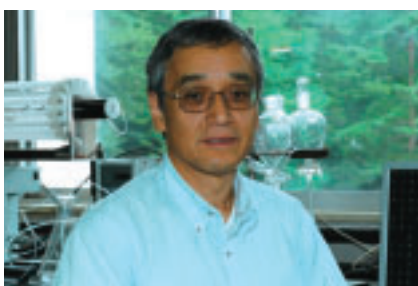


第三者意見・編集後記

●第三者意見



国立大学法人 信州大学 教授 農学博士 廣田 満

産業革命に始まる人間活動の活発化により、近年環境変化が地球規模で起こりつつあります。このため環境への負荷を減らす活動は企業の責務であるばかりか、人々の活動すべてにも求められています。信州大学でもISO14001認証を取得し、環境教育を通じて環境マインドを持つ学生を育てつつあります。

東京応化の「環境・社会報告書2007」を読み、東京応化の環境への配慮、社会貢献に対する意気込みを感じました。

企業は着実に持続的な発展と増益を求められる一方、環境負荷への対策も念頭に入れなければならない時代です。東京応化では様々な環境対策を実施し、環境中に化学物質を放出しない努力がされていることは大変評価できました。今後は、数値目標を設定し、これを実現する努力が必要になると感じます。

また、東京応化の経営理念の一つである「社会への貢献」を具現化するCSR活動においても、事業を通じて、環境に配慮した製品の開発・販売、従業員へのワーク・ライフ・バランスの実

践など様々な取り組みが行われていますが、これらについても長期目標、具体的施策が不明確である印象を受けました。今後より一層の環境・CSRの取り組みを行っていくうえで、本報告書に掲載された内容をどのように保証・実行していくかが、重要な課題だと思います。

現在、地球環境は悪化の一途を辿っており、温暖化を含め待ったなしの状況にあります。太陽電池材料などの環境に配慮した製品の開発、原材料のリサイクルの促進など、今後も、社会が持続可能な成長を続けるためにも、東京応化のこのような事業活動を通した取り組みが社会へ貢献していくことを期待します。

●第三者意見をいただいて

東京応化の「環境保全活動」「CSR活動」の充実・質の向上を図るうえで、具体的目標の設定は不可欠であり、これらの活動に対して漠然と取り組むのではなく、あるべき姿を想定した明確な目標設定を行い、取り組んでいくことが必要であると認識しています。トップダウンによるだけでなく、各現場で

目標意識を持った改善・改良などにも力を入れ、東京応化の環境・CSRに対する取り組みの向上を図っていきたいと考えています。

今回いただきましたご指摘、ご意見を真摯に受け止め、東京応化の今後の活動の中で実践してまいりたいと思います。



安全環境管理部長 市川 進

編集後記

「環境・社会報告書2007」をご覧いただき、ありがとうございます。

本報告書は、東京応化の取り組みについて多くのステークホルダーの皆様を紹介していくツールとして、わかりやすい誌

面づくりを心掛け編集しました。

今後も、皆様の期待に沿った取り組みを継続していくため、皆様からのご意見・ご要望を反映し、双方向のコミュニケーションツールとして、よりよい活動、よりよい報

告書の作成につなげていきたいと考えています。お読みいただいたご意見やご感想を添付のアンケートなどでお聞かせいただければ幸いです。

2007年8月 安全環境管理部